

# 平成29年10月6日の水質検査結果

前年との比較ができるように平成28年度の検査結果も併記しました。

調査地点 他 調査項目	パック テスト の形式	単位	調 査 場 所					
			沖館川 (沖館川合流手前) バイパス下相野小橋		西滝川 (沖館川合流手前) バイパス下西滝小橋		沖館川 (沖館橋下流側)	
			H28. 10. 3	H29. 10. 6	H28. 10. 3	H29. 10. 6	H28. 10. 3	H29. 10. 6
水素イオン 濃度指数 pH	WAK-pH	—	7.0	7.0	6.5	6.7	6.8	6.8
化学的酸素 要求量 COD	WAK-COD	mg/ℓ	7.0	6.0	7.0	6.0	6.0	6.0
溶存酸素量 DO	K-7510	mg/ℓ	9.0以上	8.0	8.0	9.0以上	8.0	8.0
水 温	—	℃	20.0	14.2	19.2	11.1	21.3	12.6
外 温	—	℃	23.0	12.7	23.0	12.7	23.0	12.7

※ H29. 10. 3 青森市における干潮時刻は9時35分で水のサンプリングは9時25分～9時40分で実施  
(気象庁発表による干潮時潮位 1.7 cm)

※ 水流は、西滝川では上流→下流を確認。沖館川(合流手前)では殆ど水流が確認できなかった。

※ 西滝川、沖館川(田橋)地点では油膜が見られた。3地点とも浮遊物は確認されませんでした。

※ 沖館川(上流)では、水鳥や鯉が多数遊泳しているのが確認された。

※ 外温、水温の対前年比較：外温=-10.3℃、水温=-5.8～8.7℃と低かった。

※ 沖館橋が橋の工事中の為、サンプリングは田橋(沖館橋より150mほど上流側)地点で行ないました。

<結果考察> 水温が低かったことを考慮しても、水質の悪化は見られませんでした。

## 【 参 考 】

### 1. pHとは?

水中の水素イオン濃度を表わす値で、水素イオン濃度の逆数の常用対数で表わされる。

pH7を中性、pH7より大きいものをアルカリ性、小さいものを酸性という。

水道法による水質基準は、5.8以上8.6以下と定められています。

「維持されることが望ましい」河川の環境基準では6.5以上8.5以下とされています。

(酸性<中性(pH7)<アルカリ性)

### 2. CODとは?

ケミカル オキシジン デイマント

COD (Chemical Oxygen Demand) = 化学的酸素要求量

水中にある物質(主に有機物)が酸化剤によって酸化される時に消費される酸素量。

CODの値が高いということは水中の酸素を消費してしまう物質がたくさん入っていることを意味します。

1mg/ℓぐらいの水は非常にきれいで、溪流の岩魚が棲めるような、源流域の数値。

水道法での水質基準では、「有機物等」は10mg/ℓ以下と定められています。

「快適な水源」としては3mg/ℓ以下が望ましいとされています。

水中の腐敗物が同じ量存在する場合、水温が高ければ要求量は大きくなります。

### 3. DOとは?

水中に溶け込んでいる酸素量で、きれいになる水ほど飽和に近い量が含まれる。

一般に魚介類が生活するためには3mg/ℓ以上、好気性微生物が活発に活動するためには、

水温は20℃で飽和値は9.17mg/ℓ